

岩手県子どもの生活実態調査報告書の概要

1 調査の概要

- ・ 次期子どもの貧困対策推進計画の策定に当たり、子どもの生活実態等を踏まえた具体的な取組等の検討を行うため、小学5年生・中学2年生の児童生徒及びその保護者、就学援助制度利用世帯等の保護者に対し、全数調査を行った。
- ・ 併せて、小学1年生から中学3年生までの全ての保護者に対し、自由記載による支援ニーズ調査を行った。

	子どもの生活実態調査			就学援助制度 利用世帯等調査	支援ニーズ調査
	計	小学5年生	中学2年生		
調査時期	平成30年8月20日調査票一斉配付				平成30年8月20日～12月末
調査方法	無記名式全数調査（学校配付・回収）				記名式全数調査（学校配付、個別返送）
調査対象者	小学5年生、中学2年生の児童生徒及びその保護者全て			就学援助制度利用世帯等の保護者全て	小学1年生～中学3年生の保護者全て
調査対象者数	41,176人	20,222人	20,954人	7,748人	91,836人
回答数	36,491人 保護者18,199人 子18,292人	18,003人 保護者8,964人 子9,039人	18,488人 保護者9,235人 子9,253人	5,345人	868件
回答率	88.6%	89.0%	88.2%	69.0%	—
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世帯の状況 ・ 子どもの食事、健康状態、家庭生活・学校生活 ・ 保護者の就労状況、収入 ・ 世帯の暮らし向き ・ 公的支援等の利用状況 ※ 「就学援助制度利用世帯等調査」は、就学援助制度が学校で必要な費用として足りているかを独自の設問として設定しているほかは、「子どもの生活実態調査」と同じ内容				子育て全般に係る悩みや不安、困っていること等について自由記載

※ 県内の公立小・中学校を対象に実施

2 分析の概要

- ・ 「子どもの生活実態調査」及び「就学援助制度利用世帯等調査」については、収入階層及び世帯類型による子どもの生活実態の差を比較するため、世帯年収及び世帯構成の記載に不備がない保護者用調査票及びそれに対応する児童生徒用調査票を抽出し、収入階層別及び世帯類型別に比較分析を行った。
- ・ その際、収入階層別については、「子どもの生活実態調査」の回答を、平成29年の世帯年収（税込）を世帯員数の平方根で除して得た値により、「中央値（2,449,490円）以上」、「中央値（2,449,490円）未満」（中央値の1/2以上、中央値未満）及び「中央値の1/2（1,224,745円）未満」の3つに区分し、これに「就学援助制度利用世帯等調査」の回答を加えた4階層に分類、集計した。
- ・ また、収入が低い階層において子どもの幸福感・自己肯定感が低い傾向が見られるが、その背景として多様な要素が関連していると考えられることから、これらの傾向を明らかにするため、幸福感・自己肯定感が高い子どもと低い子どもとの比較分析を行った。
- ・ 更に、「支援ニーズ調査」については、個別の支援ニーズの傾向を明らかにするため、KH Coder（樋口耕一）を用いた計量テキスト分析を行った。

計 (D+E)	収入階層別（単位：世帯（＝保護者数））				
	小計 (A+B+C) (D)	小学5年生・中学2年生			就学援助世帯 (E)
		中央値以上 (A)	中央値未満 (B)	中央値の1/2 未満 (C)	
16,540	12,888	6,465	5,012	1,411	3,652
-	100.0%	50.2%	38.9%	10.9%	-

計	世帯類型別（単位：世帯（＝保護者数））					
	両親のいる世帯	母子世帯（母及び18歳未満の子のみ）	母子世帯（18歳以上の親族等同居）	父子世帯（父及び18歳未満の子のみ）	父子世帯（18歳以上の親族等同居）	その他
16,540	12,716	2,299	1,169	131	199	26
100.0%	76.9%	13.9%	7.1%	0.8%	1.2%	0.2%

※ 世帯類型別の「その他」は、祖父母との同居など。

有効回答率（保護者）：小学5年生・中学2年生 70.8%、就学援助世帯 68.3%

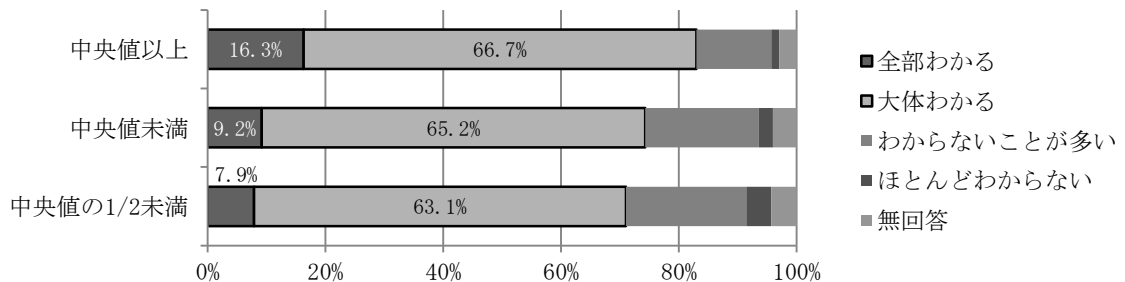
3 主な課題

(1) 子どもの教育に関する課題

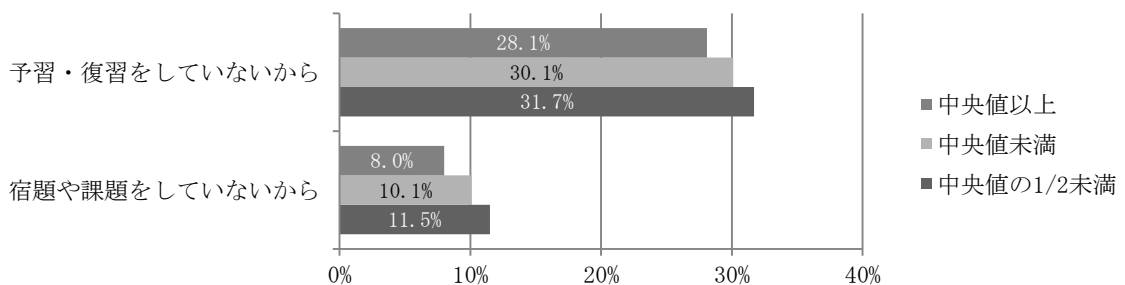
① 子どもの授業の理解度に関する課題

- ・ 収入が中央値よりも低い世帯の子どもは、中央値以上の世帯の子どもに比べ、授業の理解度が低い傾向にあり、その理由として、宿題や予習・復習などの家庭学習の不足を挙げた割合が高い。

【児童生徒回答】あなたは、学校の授業がどのくらいよくわかりますか。

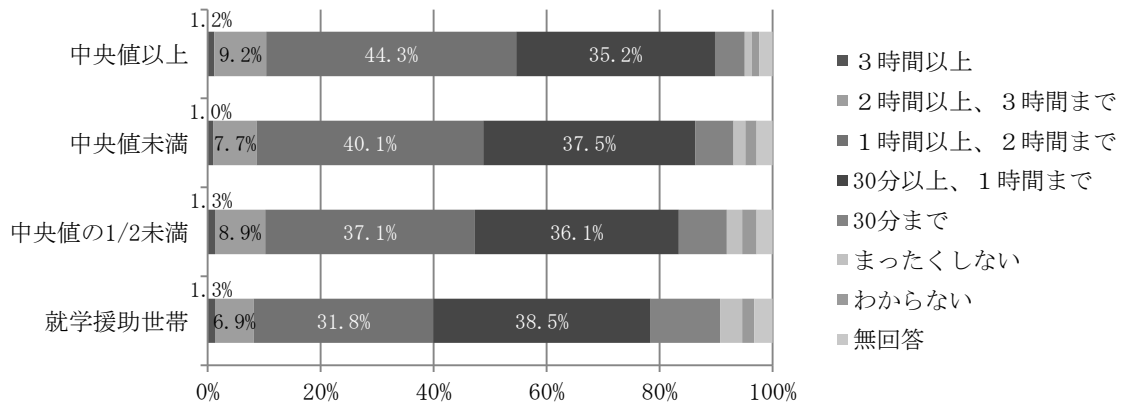


【児童生徒回答】授業がわからない理由は何ですか。（複数回答）



- ・ 収入が中央値よりも低い世帯の子どもは、中央値以上の世帯の子どもに比べ、家庭での学習時間が少ない傾向にある。

【保護者回答】 調査対象のお子さんは学校が終わってから、普段（月～金曜日）、塾の時間も含めて家庭などで1日あたりどのくらいの時間、勉強をしているか。



- ・ 幸福感が低い子どもは、高い子どもに比べ、授業の理解度が低く、授業がわからない理由として、勉強する気が起きないことを挙げた割合が高い。

【児童生徒回答】あなたは、学校の授業がどのくらいよくわかりますか。(中央値の1/2未満)

(小学5年生)

(中学2年生)

	問4 あなたは、自分は幸せだと思いますか。(1つに○)		
	とても幸せだと思う、幸せだと思う (A)	あまり幸せだと思わない、幸せだと思わない (B)	(A)と(B)の割合の乖離 (B-A)
1 全部わかる	73 12.8%	1 1.3%	▲ 11.5
2 大体わかる	427 75.0%	43 55.8%	▲ 19.2
3 わからないことが多い	58 10.2%	19 24.7%	14.5
4 ほとんどわからない	6 1.1%	6 7.8%	6.7
5 無回答	5 0.9%	8 10.4%	9.5
計	569 100.0%	77 100.0%	0.0

	問4 あなたは、自分は幸せだと思いますか。(1つに○)		
	とても幸せだと思う、幸せだと思う (A)	あまり幸せだと思わない、幸せだと思わない (B)	(A)と(B)の割合の乖離 (B-A)
1 全部わかる	27 4.6%	6 7.2%	2.6
2 大体わかる	358 61.0%	28 33.7%	▲ 27.3
3 わからないことが多い	160 27.3%	35 42.2%	14.9
4 ほとんどわからない	33 5.6%	13 15.7%	10.1
5 無回答	9 1.5%	1 1.2%	▲ 0.3
計	587 100.0%	83 100.0%	0.0

【児童生徒回答】授業がわからない理由は何ですか。(複数回答、全体)

(小学5年生)

(中学2年生)

	問4 あなたは、自分は幸せだと思いますか。(1つに○)		
	とても幸せだと思う、幸せだと思う (A)	あまり幸せだと思わない、幸せだと思わない (B)	(A)と(B)の割合の乖離 (B-A)
1 授業の進み方が早すぎるから	98 18.3%	27 22.5%	4.2
2 授業の内容がむずかしいから	330 61.6%	68 56.7%	▲ 4.9
3 今まで習ってきたことがわからないから	89 16.6%	23 19.2%	2.6
4 宿題や課題をしていないから	22 4.1%	13 10.8%	6.7
5 予習・復習をしていないから	102 19.0%	16 13.3%	▲ 5.7
6 苦手・きらいな教科が多いから	288 53.7%	52 43.3%	▲ 10.4
7 勉強をする気がおきないから	138 25.7%	42 35.0%	9.3
8 その他	30 5.6%	10 8.3%	2.7
9 無回答	12 2.2%	3 2.5%	0.3

	問4 あなたは、自分は幸せだと思いますか。(1つに○)		
	とても幸せだと思う、幸せだと思う (A)	あまり幸せだと思わない、幸せだと思わない (B)	(A)と(B)の割合の乖離 (B-A)
1 授業の進み方が早すぎるから	314 23.9%	76 27.2%	3.3
2 授業の内容がむずかしいから	708 53.8%	151 54.1%	0.3
3 今まで習ってきたことがわからないから	396 30.1%	88 31.5%	1.4
4 宿題や課題をしていないから	124 9.4%	53 19.0%	9.6
5 予習・復習をしていないから	436 33.1%	110 39.4%	6.3
6 苦手・きらいな教科が多いから	764 58.1%	179 64.2%	6.1
7 勉強をする気がおきないから	448 34.0%	132 47.3%	13.3
8 その他	101 7.7%	33 11.8%	4.1
9 無回答	18 1.4%	1 0.4%	▲ 1.0

- ・ 収入が中央値の1/2未満の世帯の子どものうち、授業の理解度が低い子どもは、高い子どもに比べ、家族の良いところとして、家で落ち着いて勉強できることを挙げた割合が低い。

【児童生徒回答】あなたは、学校の授業がどのくらいよくわかりますか。

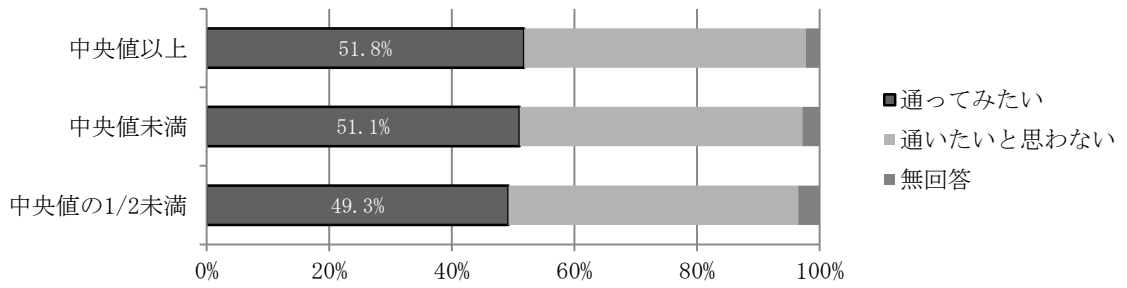
【児童生徒回答】あなたの家族の良いところはどれですか。(複数回答のうち「家で落ち着いて勉強できる」を選択)

	問6 あなたは、学校の授業がどのくらいよくわかりますか。(1つに○)			
	小学5年生 中央値の1/2未満		中学2年生 中央値の1/2未満	
	全部わかる、 大体わかる	わからないこ とが多い、ほ とんどわから ない	全部わかる、 大体わかる	わからないこ とが多い、ほ とんどわから ない
問 家で落ち着いて勉 8 強できる	284 50.5%	28 30.4%	170 38.5%	45 17.6%

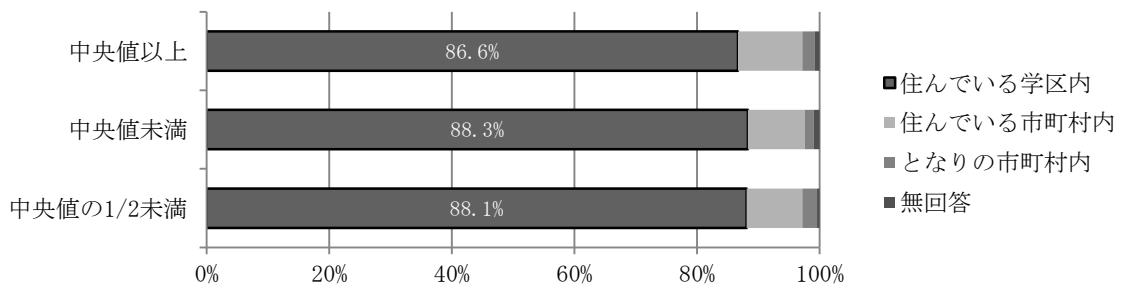
※ 問6について無回答の者を除く。

- 収入に関わらず、約半数の子どもが無料で勉強を教えてもらえる場所があったら通うことを望んでおり、そのうち8割以上が住んでいる学区内での利用を希望している。

【児童生徒回答】あなたは、無料で勉強を教えてもらえる場所があったら、通いたいと思いますか。



【児童生徒回答】その場所は、どの範囲にあれば通いたいと思いますか。

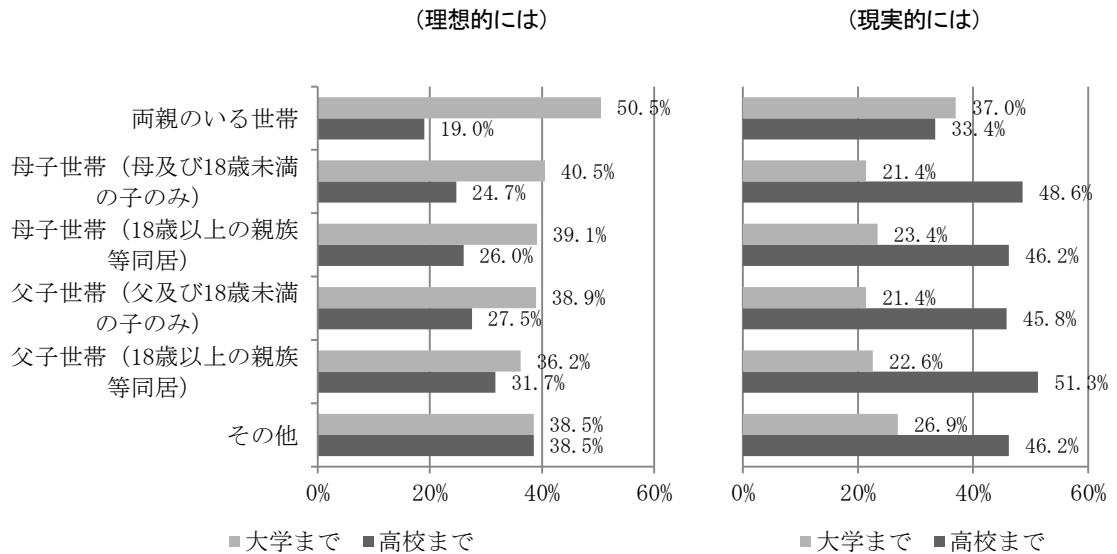


② 子どもの就学に関する課題

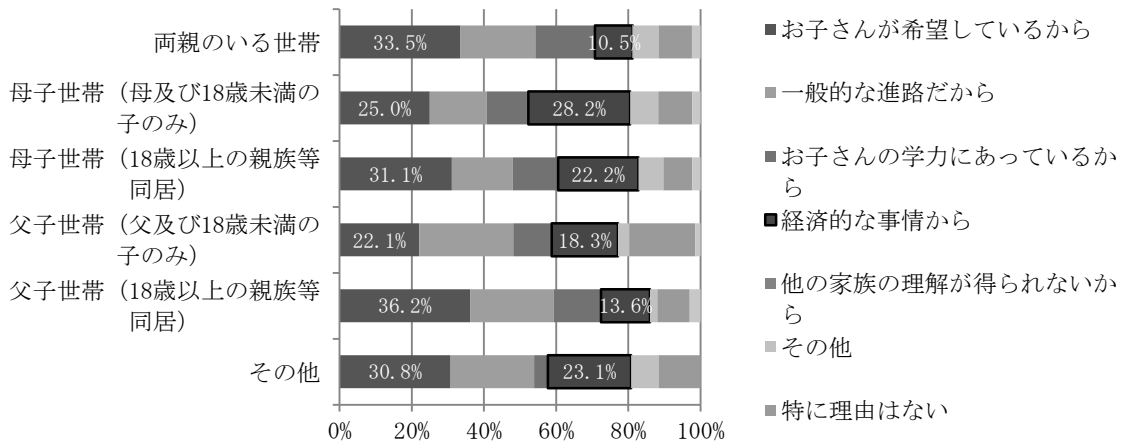
- 母子世帯の保護者は、子どもに、理想的には大学まで進んでほしいが、現実的には高校までと考えている場合が多く、そのように考える理由として2割以上の保護者が経済的な事情を挙げている。

【保護者回答】あなたは調査対象のお子さんに、理想的には、どの段階の学校まで進んでほしいか。

【保護者回答】あなたは調査対象のお子さんが、現実的には、どの段階の学校まで進むと考えているか。

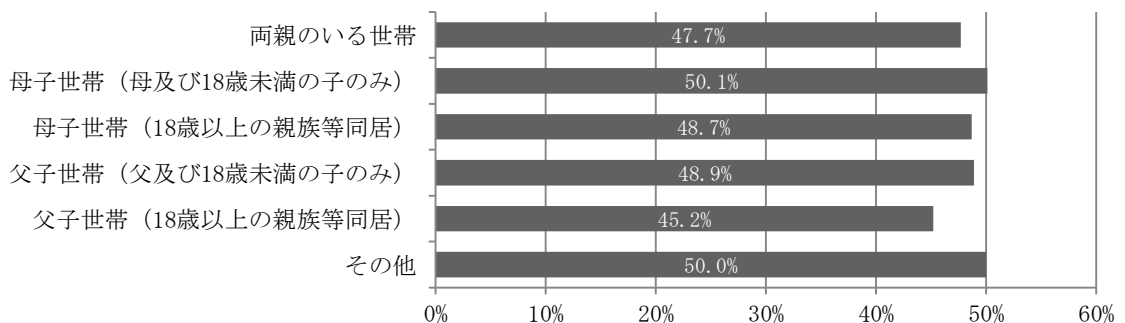


【保護者回答】あなたが問24のようにお考えになる理由は何ですか。



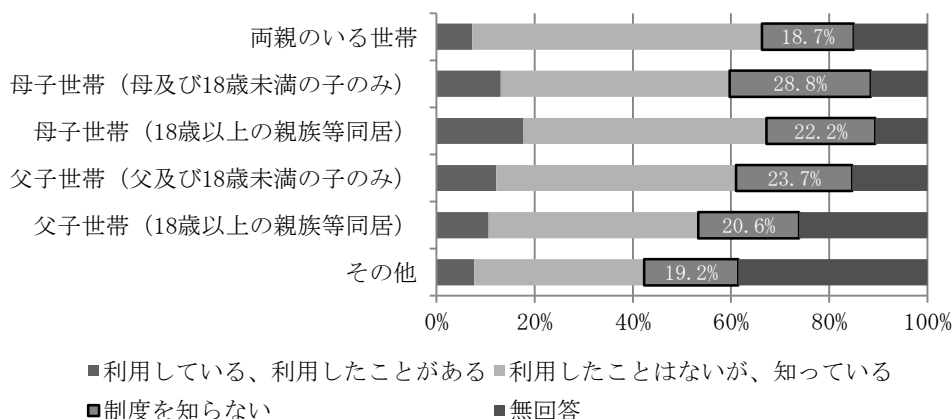
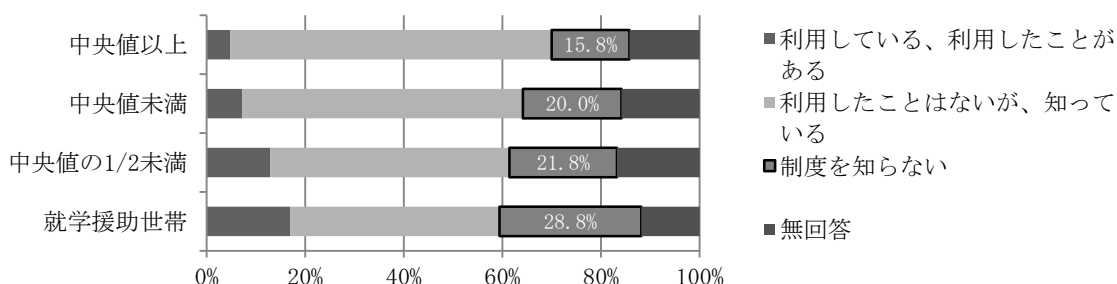
- 世帯類型に関わらず、子どもの教育のための経済的支援に対する保護者のニーズが高い。

【保護者回答】あなたは、子育てをしていくうえで、どのような支援が充実すると良いと思いますか。(複数回答のうち「子どもの教育のための経済的支援」)



- 子どもの教育を経済的に支援する制度の周知が、母子世帯や就学援助世帯の保護者に行き届いていない。

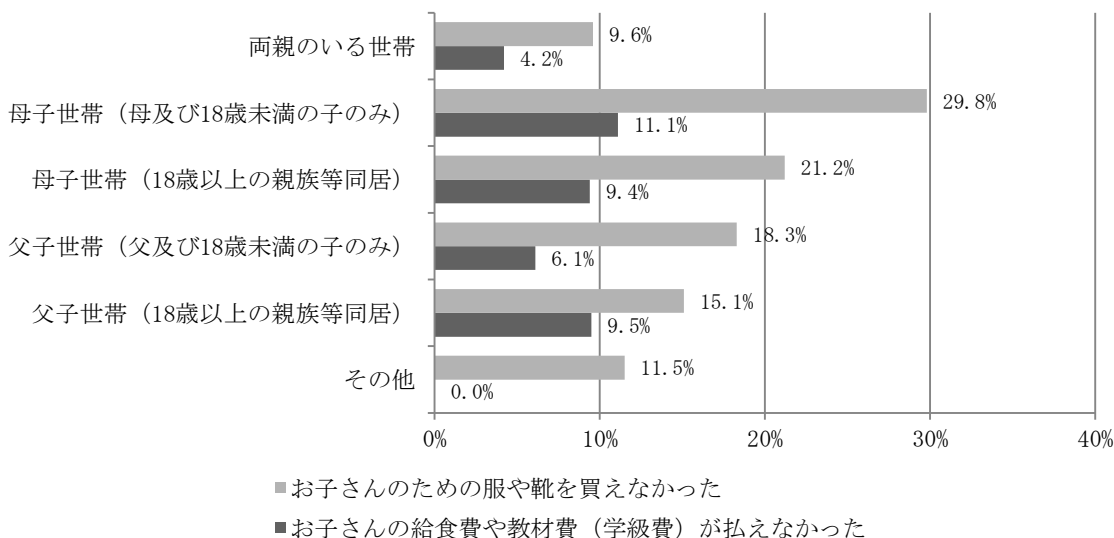
【保護者回答】 次の公的制度を利用した（または支援を受けた）ことがありますか。「(お子さんの兄弟姉妹の) 奨学給付金」



③ 子どもの学校生活等に関する課題

- 母子世帯では、両親のいる世帯及び父子世帯に比べ、経済的な理由により子どもの給食費や教材費が払えなかったなど、子どもに直接影響が及ぶ経験をした割合が高い。

【保護者回答】 あなたの世帯では、おおむね1年の間に、経済的な理由（お金が足りなくて）で、次のような経験をしたことがありますか。（複数回答から抜粋）



- ・ 小学5年生では、経済的な理由による影響が、世帯全体の生活に現れた場合に比べ、子どもに直接現れた場合に、子どもの幸福感との関連がより大きいことが窺える。

【保護者回答】あなたの世帯では、おおむね1年の間に、経済的な理由（お金が足りなくて）で、次のような経験をしたことがありますか。（複数回答、小学5年生・中央値の1/2未満）

【保護者回答】あなたの世帯では、おおむね1年の間に、経済的な理由（お金が足りなくて）で、次のような経験をしたことがありますか。（複数回答、小学5年生・中央値の1/2未満）

(世帯全体の生活に現れた場合)

(子どもに直接現れた場合)

	問4 あなたは、自分は幸せだと思いますか。（1つに○）		
	とても幸せだと思う (A)	あまり幸せだと思わない、幸せだと思わない (B)	(A)と(B)の割合の乖離 (B-A)
1 電気・ガス・水道などが止められた	24 4.2%	2 2.6%	▲ 1.6
2 医療機関を受診することができなかった（予防接種を含む）	67 11.8%	12 15.6%	3.8
3 生活費を金融機関などから借金をした	70 12.3%	13 16.9%	4.6
4 最低限の食事を食うことができなかった	10 1.8%	5 6.5%	4.7
5 クレジットカードの利用が停止になった	24 4.2%	8 10.4%	6.2
6 国民健康保険料や国民年金の支払いが滞った	100 17.6%	15 19.5%	1.9
7 税金の支払いが滞った	103 18.1%	15 19.5%	1.4
8 電話（固定・携帯）などの通信料の支払いが滞った	68 12.0%	15 19.5%	7.5
9 家賃や住宅ローンの支払いが滞った	42 7.4%	10 13.0%	5.6
10 新しい衣服や靴を買うことができなかった	147 25.8%	21 27.3%	1.5
11 冠婚葬祭のつきあいを控えた	52 9.1%	7 9.1%	0.0
12 理髪店や美容院に行くことができなかった	136 23.9%	20 26.0%	2.1
13 敷金・保証金等を用意できないので、住み替え・転居を断念した	35 6.2%	5 6.5%	0.3
14 趣味やレジャーの出費を減らした	252 44.3%	37 48.1%	3.8
15 どれにもあてはまらない	198 34.8%	23 29.9%	▲ 4.9
16 無回答	17 3.0%	1 1.3%	▲ 1.7

	問4 あなたは、自分は幸せだと思いますか。（1つに○）		
	とても幸せだと思う (A)	あまり幸せだと思わない、幸せだと思わない (B)	(A)と(B)の割合の乖離 (B-A)
1 お子さんを医療機関を受診させることができなかった（予防接種を含む）	72 12.7%	13 16.9%	4.2
2 お子さんのための服や靴を買えなかった	116 20.4%	19 24.7%	4.3
3 お子さんのための本や絵本を買えなかった	73 12.8%	10 13.0%	0.2
4 お子さんの給食費や教材費（学級費）が払えなかった	53 9.3%	19 24.7%	15.4
5 お子さんを遠足や修学旅行に参加させることができなかった	1 0.2%	1 1.3%	1.1
6 お子さんを習い事に通わせることができなかった（通信教育を含む）	89 15.6%	19 24.7%	9.1
7 お子さんに誕生日プレゼントやお年玉をあげることができなかった	92 16.2%	23 29.9%	13.7
8 家族旅行（日帰りを含む）ができなかった	179 31.5%	34 44.2%	12.7
9 どれにもあてはまらない	294 51.7%	33 42.9%	▲ 8.8
10 無回答	31 5.4%	2 2.6%	▲ 2.8

- ・ 幸福感が低い子どもは、高い子どもに比べ、嫌なことや悩みを誰にも相談しない割合が高い。

【児童生徒回答】あなたは、いやなことや悩みがあるとき、だれに相談しますか。(複数回答から抜粋、全体)

(小学5年生)

(中学2年生)

	問4 あなたは、自分は幸せだと思いますか。(1つに○)		
	とても幸せだと思う、幸せだと思う(A)	あまり幸せだと思わない、幸せだと思わない(B)	(A)と(B)の割合の乖離(B-A)
保護者・親・兄弟姉妹	4,268 76.5%	226 48.8%	▲ 27.7
学校の友だち	2,898 51.9%	153 33.0%	▲ 18.9
だれにも相談しない	535 9.6%	139 30.0%	20.4

	問4 あなたは、自分は幸せだと思いますか。(1つに○)		
	とても幸せだと思う、幸せだと思う(A)	あまり幸せだと思わない、幸せだと思わない(B)	(A)と(B)の割合の乖離(B-A)
保護者・親・兄弟姉妹	3,583 63.6%	197 34.1%	▲ 29.5
学校の友だち	3,862 68.6%	248 43.0%	▲ 25.6
だれにも相談しない	593 10.5%	179 31.0%	20.5

(2) 子どもと保護者の生活に関する課題

① 子どもの家庭環境に関する課題

- ・ 家族の団らんや会話が多いこと、家で落ち着いて勉強できることなどの家庭環境と、子どもの幸福感とは、大きく関連していることが窺える。

【児童生徒回答】あなたの家族の良いところはどれですか。(複数回答、全体)

(小学5年生)

(中学2年生)

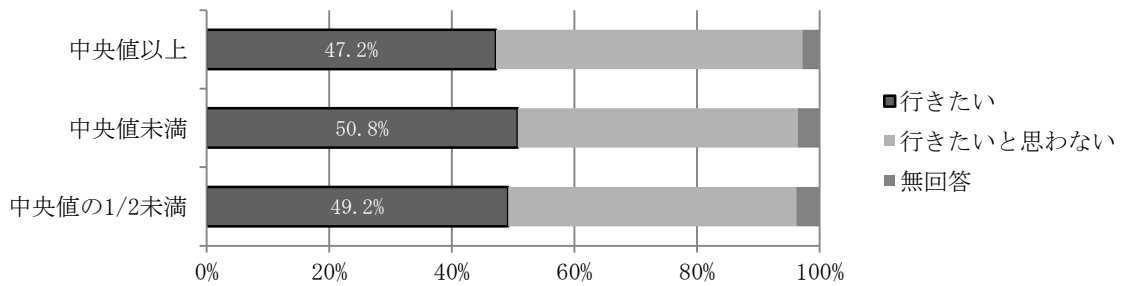
	問4 あなたは、自分は幸せだと思いますか。(1つに○)		
	とても幸せだと思う、幸せだと思う(A)	あまり幸せだと思わない、幸せだと思わない(B)	(A)と(B)の割合の乖離(B-A)
1 家族の団らんや会話が多い	3,580 64.1%	137 29.6%	▲ 34.5
2 親がやさしい	3,580 64.1%	126 27.2%	▲ 36.9
3 親が自分の気持ちをわかってくれる	3,143 56.3%	98 21.2%	▲ 35.1
4 父親と母親の仲が良い	2,863 51.3%	98 21.2%	▲ 30.1
5 兄弟姉妹との仲が良い	2,185 39.1%	81 17.5%	▲ 21.6
6 家で落ち着いて勉強できる	3,123 55.9%	119 25.7%	▲ 30.2
7 病気の人やお年寄りの世話を協力してやっている	1,234 22.1%	52 11.2%	▲ 10.9
8 いつもご飯が用意されている	4,587 82.2%	254 54.9%	▲ 27.3
9 着る服がたくさんある	4,209 75.4%	211 45.6%	▲ 29.8
10 家の中がきれいに片付いている	2,139 38.3%	82 17.7%	▲ 20.6
11 家にお金がたくさんある	1,271 22.8%	52 11.2%	▲ 11.6
12 その他	239 4.3%	15 3.2%	▲ 1.1
13 特にない	67 1.2%	64 13.8%	12.6
14 無回答	84 1.5%	17 3.7%	2.2

	問4 あなたは、自分は幸せだと思いますか。(1つに○)		
	とても幸せだと思う、幸せだと思う(A)	あまり幸せだと思わない、幸せだと思わない(B)	(A)と(B)の割合の乖離(B-A)
1 家族の団らんや会話が多い	3,632 64.5%	181 31.4%	▲ 33.1
2 親がやさしい	2,711 48.1%	99 17.2%	▲ 30.9
3 親が自分の気持ちをわかってくれる	2,249 39.9%	66 11.4%	▲ 28.5
4 父親と母親の仲が良い	2,191 38.9%	105 18.2%	▲ 20.7
5 兄弟姉妹との仲が良い	2,208 39.2%	118 20.5%	▲ 18.7
6 家で落ち着いて勉強できる	2,384 42.3%	98 17.0%	▲ 25.3
7 病気の人やお年寄りの世話を協力してやっている	804 14.3%	43 7.5%	▲ 6.8
8 いつもご飯が用意されている	4,206 74.7%	315 54.6%	▲ 20.1
9 着る服がたくさんある	2,576 45.7%	141 24.4%	▲ 21.3
10 家の中がきれいに片付いている	1,790 31.8%	93 16.1%	▲ 15.7
11 家にお金がたくさんある	707 12.6%	37 6.4%	▲ 6.2
12 その他	197 3.5%	25 4.3%	0.8
13 特にない	152 2.7%	110 19.1%	16.4
14 無回答	111 2.0%	30 5.2%	3.2

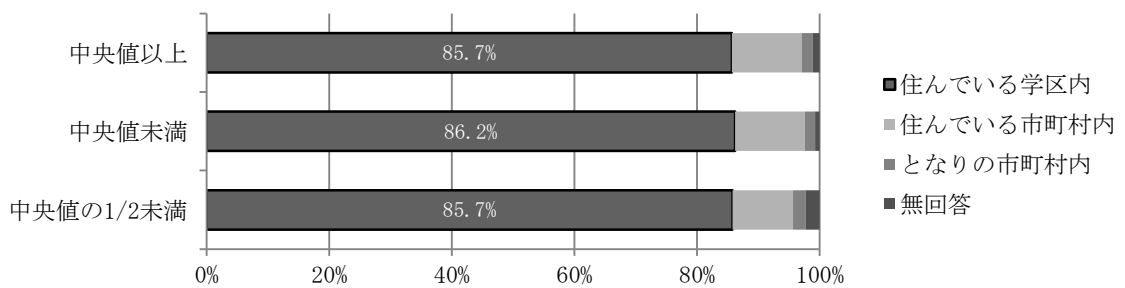
② 子どもの居場所に関する課題

- 収入に関わらず、約半数の子どもが「子ども食堂」の利用を望んでおり、そのうち8割以上が住んでいる学区内での利用を希望している。

【児童生徒回答】あなたは、無料か安い料金でご飯が食べられる「子ども食堂」があったら行きたいと思いますか。



【児童生徒回答】その場所は、どの範囲にあれば利用したいと思いますか。

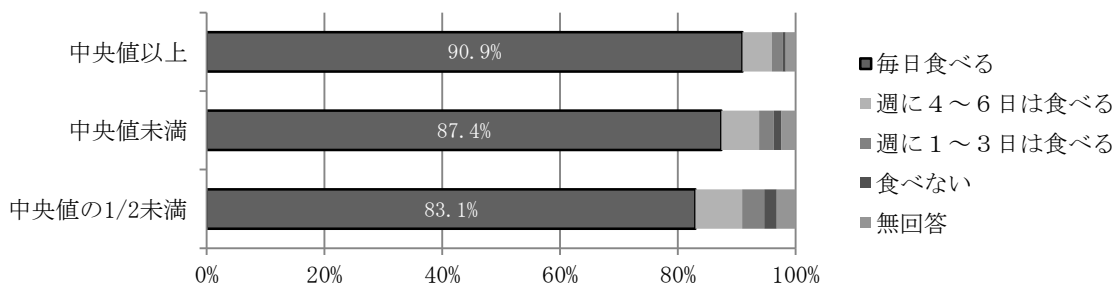


③ 子どもの朝食の摂取に関する課題

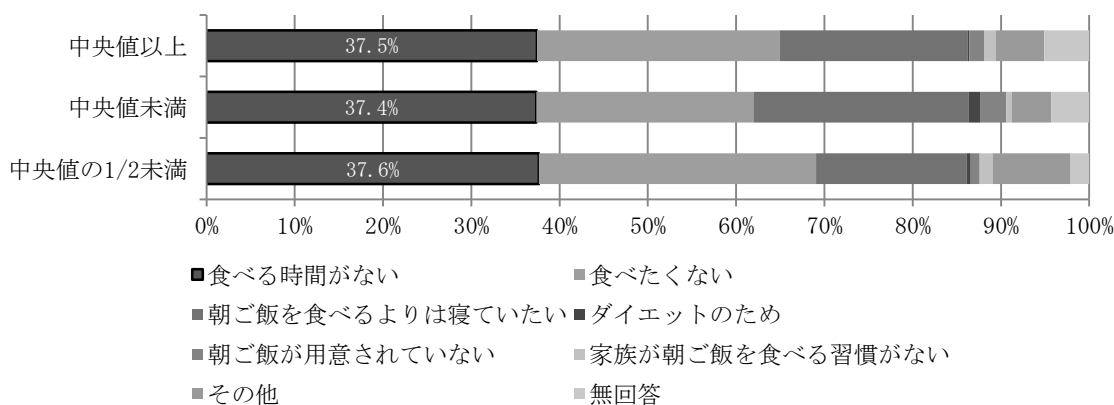
- 収入が中央値よりも低い世帯の子どもは、中央値以上の世帯の子どもに比べ、朝食を毎日食べる割合が低く、食べない理由として、食べる時間がないことを挙げた割合が高い。

また、収入が中央値よりも低い世帯の子どもは、中央値以上の世帯の子どもに比べ、朝食を大人の家族と一緒に食べる頻度が低い。

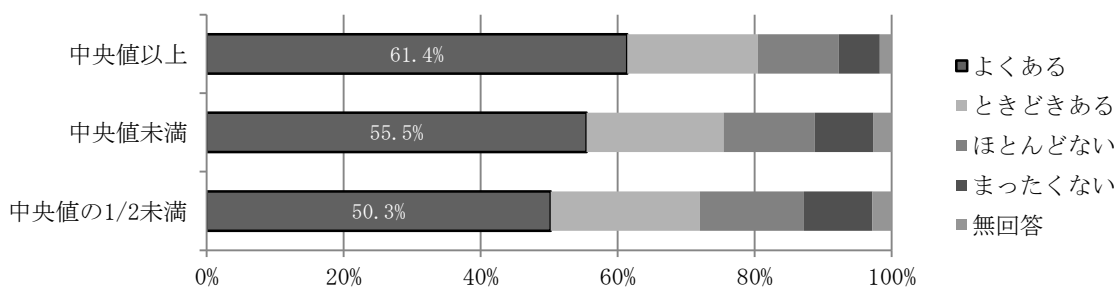
【児童生徒回答】あなたは朝ご飯をいつも食べていますか。



【児童生徒回答】朝ご飯を食べない最も大きな理由は何ですか。



【児童生徒回答】あなたは、次のようなことをどのくらいしていますか。「大人の家族と朝ご飯と一緒に食べる」



- ・ 幸福感が低い子どもは、高い子どもに比べ、朝食を毎日食べる割合が低く、大人の家族と朝食と一緒に食べることがよくある割合も低い。

【児童生徒回答】あなたは朝ご飯をいつも食べていますか。(全体)

(小学5年生)

	問4 あなたは、自分は幸せだと思いますか。(1つに○)		
	とても幸せだと思う、幸せだと思う(A)	あまり幸せだと思わない、幸せだと思わない(B)	(A)と(B)の割合の乖離(B-A)
1 毎日食べる⇒問3へ	5,188 92.9%	388 83.8%	▲ 9.1
2 週に4～6日は食べる⇒問2へ	242 4.3%	40 8.6%	4.3
3 週に1～3日は食べる⇒問2へ	86 1.5%	19 4.1%	2.6
4 食べない⇒問2へ	29 0.5%	8 1.7%	1.2
5 無回答	37 0.7%	8 1.7%	1.0
計	5,582 100.0%	463 100.0%	0.0

(中学2年生)

	問4 あなたは、自分は幸せだと思いますか。(1つに○)		
	とても幸せだと思う、幸せだと思う(A)	あまり幸せだと思わない、幸せだと思わない(B)	(A)と(B)の割合の乖離(B-A)
1 毎日食べる⇒問3へ	5,023 89.2%	438 75.9%	▲ 13.3
2 週に4～6日は食べる⇒問2へ	355 6.3%	79 13.7%	7.4
3 週に1～3日は食べる⇒問2へ	153 2.7%	30 5.2%	2.5
4 食べない⇒問2へ	62 1.1%	23 4.0%	2.9
5 無回答	39 0.7%	7 1.2%	0.5
計	5,632 100.0%	577 100.0%	0.0

【児童生徒回答】あなたは、次のようなことをどのくらいしていますか。「大人の家族と朝ご飯と一緒に食べる」(全体)

(小学5年生)

	問4 あなたは、自分は幸せだと思いますか。(1つに○)		
	とても幸せだと思う、幸せだと思う(A)	あまり幸せだと思わない、幸せだと思わない(B)	(A)と(B)の割合の乖離(B-A)
1 よくある	3,599 64.5%	230 49.7%	▲ 14.8
2 ときどきある	1,125 20.2%	100 21.6%	1.4
3 ほとんどない	558 10.0%	76 16.4%	6.4
4 まったくない	252 4.5%	51 11.0%	6.5
5 無回答	48 0.9%	6 1.3%	0.4
計	5,582 100.0%	463 100.0%	0.0

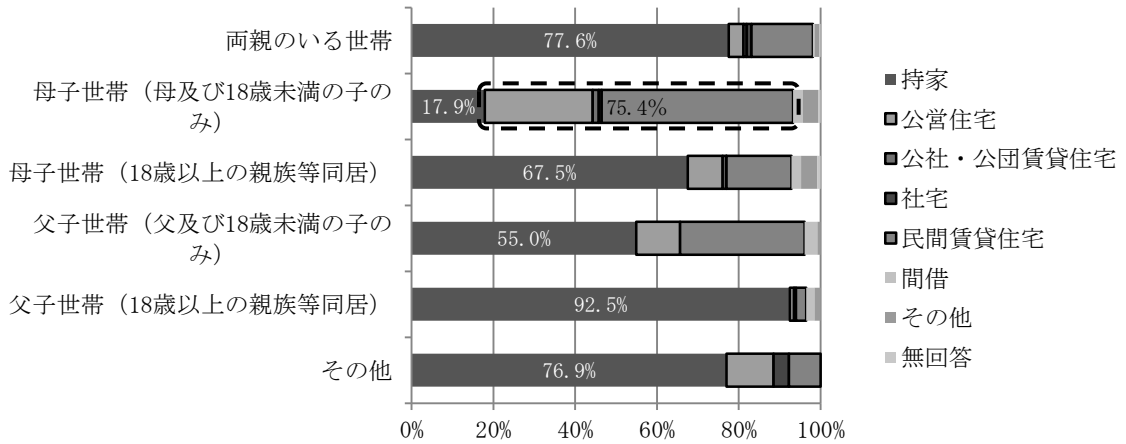
(中学2年生)

	問4 あなたは、自分は幸せだと思いますか。(1つに○)		
	とても幸せだと思う、幸せだと思う(A)	あまり幸せだと思わない、幸せだと思わない(B)	(A)と(B)の割合の乖離(B-A)
1 よくある	3,154 56.0%	204 35.4%	▲ 20.6
2 ときどきある	1,113 19.8%	126 21.8%	2.0
3 ほとんどない	838 14.9%	106 18.4%	3.5
4 まったくない	485 8.6%	134 23.2%	14.6
5 無回答	42 0.7%	7 1.2%	0.5
計	5,632 100.0%	577 100.0%	0.0

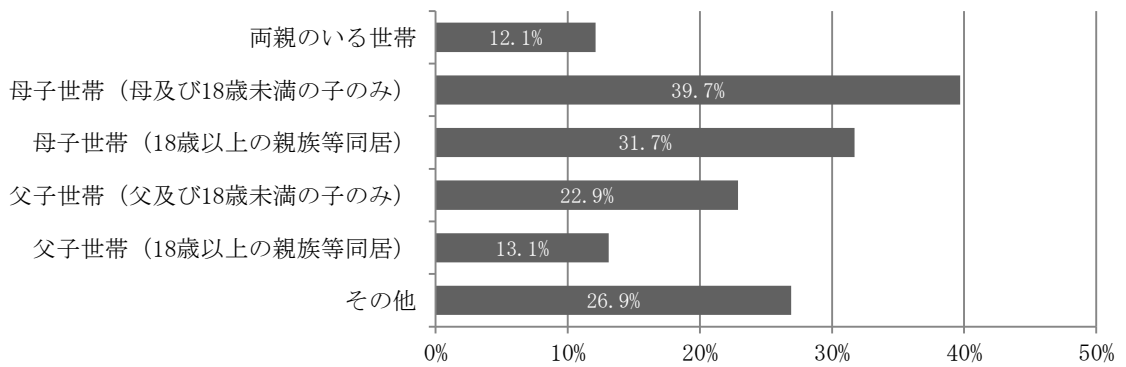
④ 世帯の住居に関する課題

- 母及び18歳未満の子のみの母子世帯では、7割以上が賃貸住宅に居住しており、低い家賃で住めるところの充実に対する保護者のニーズが高い。

【保護者回答】現在、調査対象のお子さんのお住まいの住居



【保護者回答】あなたは、子育てをしていくうえで、どのような支援が充実すると良いと思いますか。(複数回答のうち「低い家賃で住めるところ(公営住宅など)」)



⑤ 保護者への相談支援に関する課題

- 子どもや生活に関する相談のうち、特に「お金の相談・家計管理」では、母子世帯及び父子世帯の保護者において、相談できる人はいないと回答した割合が高い一方、市町村や社会福祉協議会などの公的な相談窓口が十分に活用されていない。

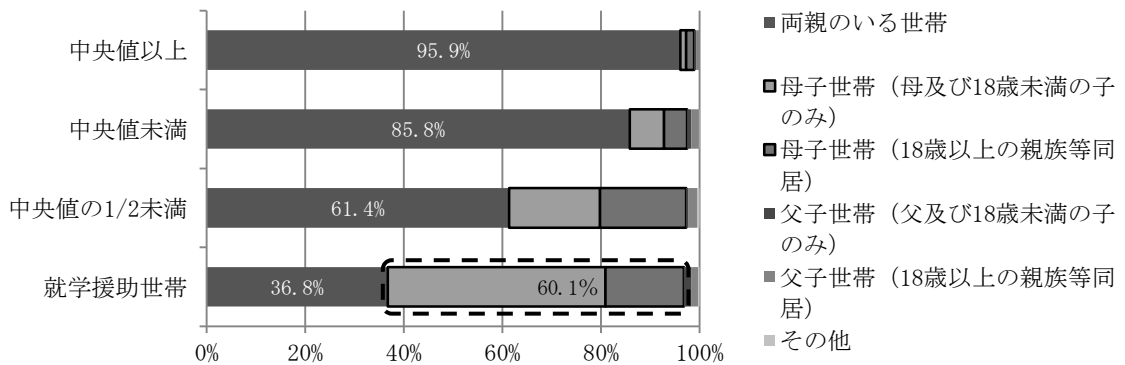
【保護者回答】 次のことで相談できる人はだれですか。「お金の相談・家計管理」（複数回答）

	両親のいる世帯	母子世帯（母及び18歳未満の子のみ）	母子世帯（18歳以上の親族等同居）	父子世帯（父及び18歳未満の子のみ）	父子世帯（18歳以上の親族等同居）	その他
自分の親や配偶者・パートナーの親	10,688 84.1%	993 43.2%	637 54.5%	41 31.3%	97 48.7%	8 30.8%
2 兄弟や親戚	1,527 12.0%	439 19.1%	213 18.2%	26 19.8%	27 13.6%	8 30.8%
3 友人、知人や同僚	1,087 8.5%	310 13.5%	126 10.8%	15 11.5%	15 7.5%	3 11.5%
4 民生委員・児童委員	2 0.0%	5 0.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
5 学校の先生	10 0.1%	2 0.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
6 放課後児童クラブや児童センターの指導員	4 0.0%	1 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
7 保健センターや市町村などの窓口	21 0.2%	24 1.0%	7 0.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
8 社会福祉協議会、生活困窮者自立相談支援機関	36 0.3%	45 2.0%	12 1.0%	1 0.8%	1 0.5%	0 0.0%
9 その他	191 1.5%	63 2.7%	47 4.0%	8 6.1%	8 4.0%	2 7.7%
10 相談できる人はいない	1,074 8.4%	817 35.5%	317 27.1%	48 36.6%	65 32.7%	4 15.4%
11 無回答	437 3.4%	90 3.9%	40 3.4%	13 9.9%	15 7.5%	4 15.4%

(3) 保護者の就労に関する課題

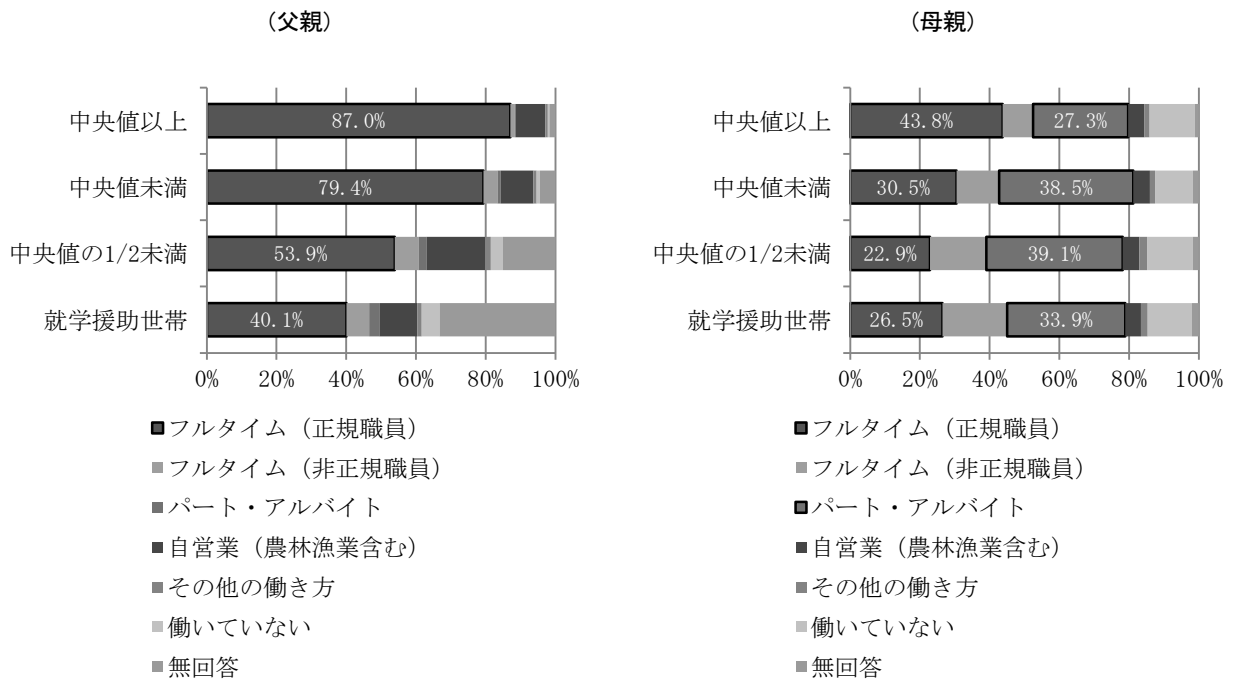
① 母子世帯の保護者の就労に関する課題

- 就学援助世帯の6割を母子世帯が占めるなど、母子世帯の収入が低い状況にある。



- ・ 母親は、父親に比べ、フルタイム（正規職員）で就労している割合が低く、収入が中央値よりも低い世帯の母親では、パート・アルバイトの割合が最も高い。

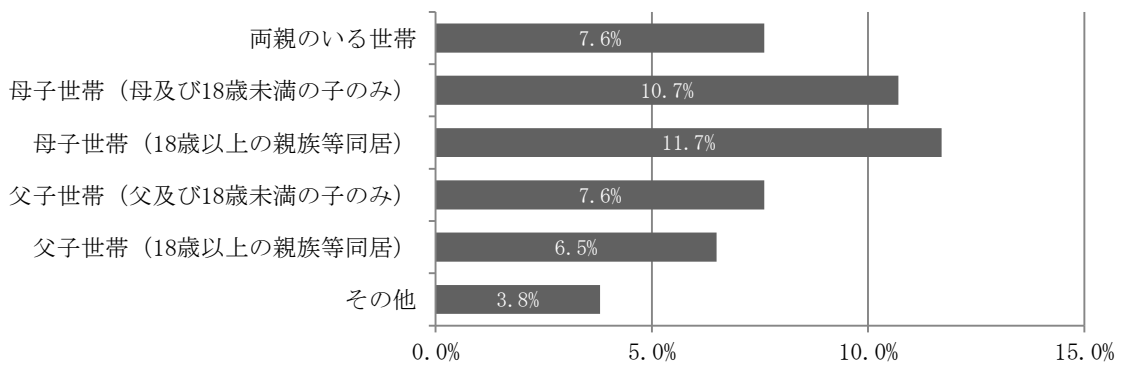
【保護者回答】父親（母親）の現在のお仕事は次のどれにもっとも近いですか。



※ 「父親はいない」、「母親はいない」を除いて再集計。

- ・ 母子世帯の保護者は、両親のいる世帯や父子世帯に比べ生活向上のための資格取得や教育の機会の充実に對するニーズが高い。

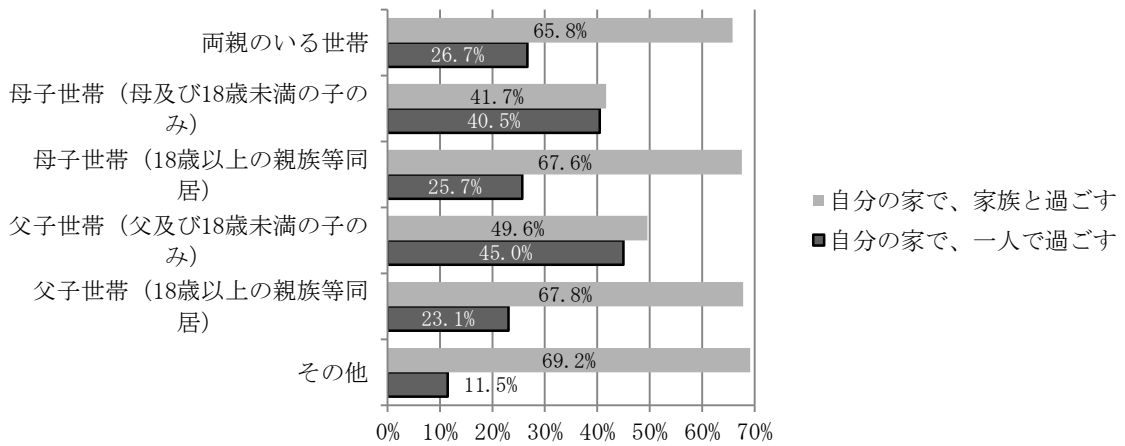
【保護者回答】あなたは、子育てをしていくうえで、どのような支援が充実すると良いと思いますか。（複数回答のうち「生活向上のための保護者の資格取得、教育の機会」）



② 子どもの放課後の過ごし方に関する課題

- 親と18歳未満の子のみの母子世帯及び父子世帯の子どもは、平日の放課後に家で一人で過ごす割合が高い。

【保護者回答】調査対象のお子さんの、平日の学校が終わった後の過ごし方（複数回答から抜粋）



- 放課後児童クラブの料金負担軽減や、サービスの地域格差の解消、利用時間の延長などに関するニーズが高い。

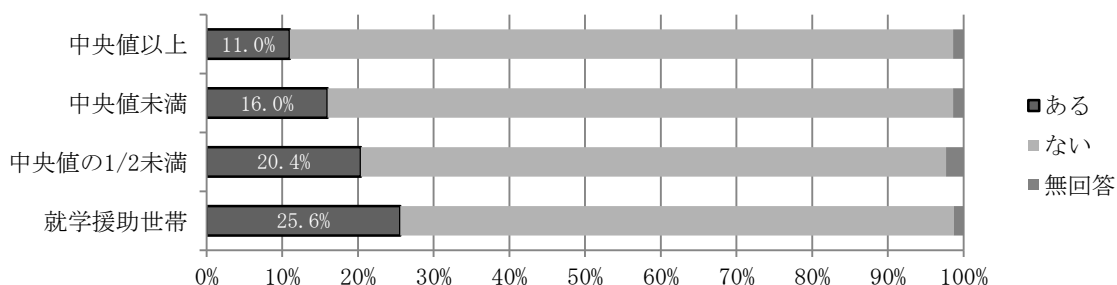
【支援ニーズ調査回答】「児童」、「利用」、「センター」、「学童」、「保育」が使用される個別支援ニーズの例

- 学童保育をもっと気軽に利用したいのですが、料金が高くて利用をためらっています。〇〇市のように、児童館として開設していただくと料金も安く、どの家庭でも利用できると思います。岩手県全域で同じ様に料金も安く安心して子どもを預けられるようにして欲しいです。
- 学童保育の料金が負担なので、〇〇市にも△△市のように児童センターを作ってほしい。
- 親が仕事に就く際に、学童保育を行っていない地区なのでとても仕事を探すのが困難である。
- 市町村によっては学童保育も1万~千円いかない所もあり不公平な所があるように思える。
- 母親が家庭の経済状況から働かなくては行けないが、児童センター、学童が6時まででフルタイムで働けない。希望する職種は就業時間が午後6時以降に終了するのが多く、安心して働けない。学童、児童センターの利用時間を午後7時までにはできませんか？
- 児童センターも保育園の様に柔軟性をもっといただき、19時、20時等閉館時間を延長して下さい。現状、子どもは、放課後は一人でお留守番です。私達家族も安心して仕事に集中させてください。

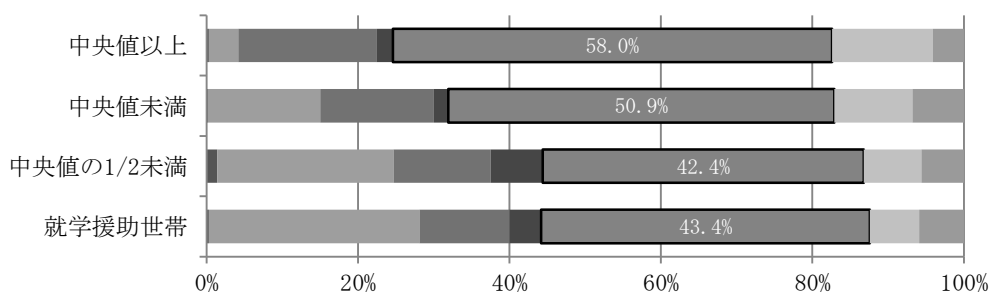
③ 保護者の仕事と子育ての両立に関する課題

- 収入が中央値よりも低い世帯の保護者は、中央値以上の世帯の保護者に比べ、子どもを医療機関に受診させられなかったことがある割合が高く、受診させなかった理由としては、いずれの収入階層においても医療機関に連れて行く時間がないことを挙げた割合が最も高い。

【保護者回答】過去1年間に医療機関でお子さんを受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありますか。



【保護者回答】その理由はなんですか。



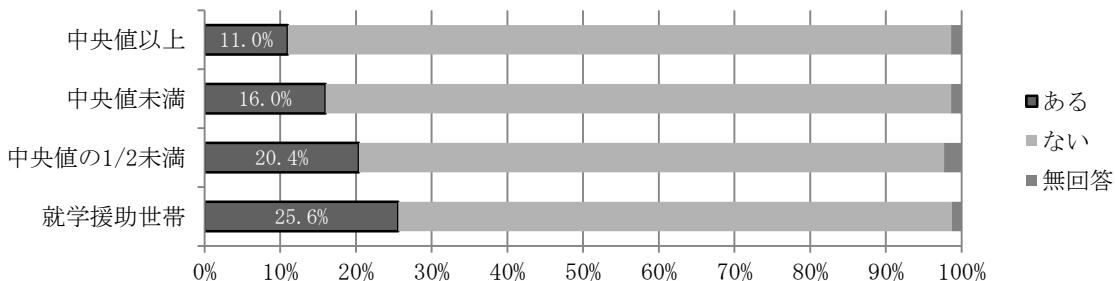
- 公的医療保険に加入しておらず、医療費の支払いができなかったため
- 公的医療保険に加入していたが、医療機関での自己負担金を支払うことができなかったため
- お子さん本人が（行くのが）嫌だと言ったため
- 医療機関までの距離が遠く、通院することが困難であったため
- 多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったため
- その他
- 無回答

(4) 世帯の経済状況に関する課題

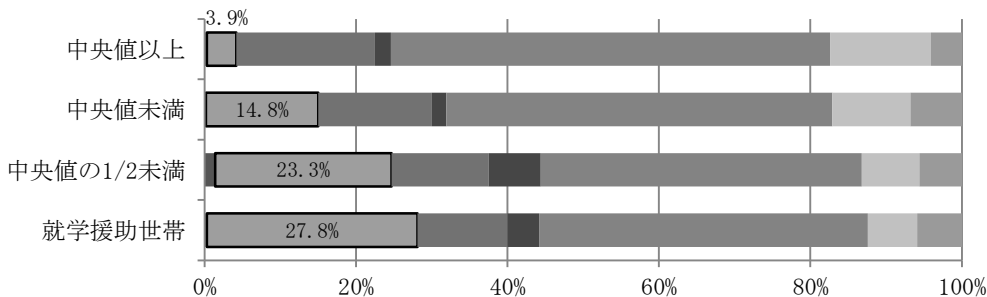
① 子どもの医療機関の受診に関する課題

- 収入が中央値よりも低い世帯の保護者は、中央値以上の世帯の保護者に比べ、子どもを医療機関に受診させられなかったことがある割合が高く、収入が中央値の1/2未満の世帯及び就学援助世帯では、2割以上が医療費の支払いが困難なことを理由に挙げている。

【保護者回答】過去1年間に医療機関でお子さんを受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありますか。



【保護者回答】その理由はなんですか。



- 公的医療保険に加入しておらず、医療費の支払いができなかったため
- 公的医療保険に加入していたが、医療機関での自己負担金を支払うことができなかったため
- お子さん本人が（行くのが）嫌だと言ったため
- 医療機関までの距離が遠く、通院することが困難であったため
- 多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったため
- その他
- 無回答

- 医療費助成制度の対象拡大や現物給付化に関するニーズが高い。

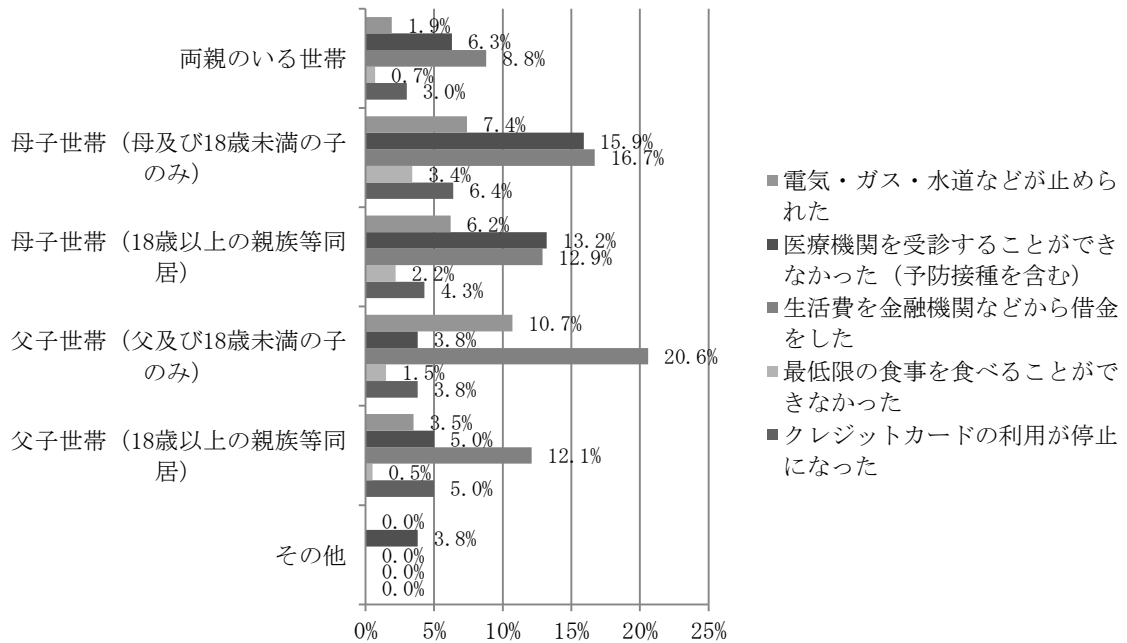
【支援ニーズ調査回答】「医療」、「助成」、「制度」が使用される個別支援ニーズの例

- 医療費助成制度を中学校までにしてほしい。
- 大きくなって中学生になった時の医療費助成制度が無くなるのは不安。
- 後から口座振り込みではなく、子どもの医療費助成制度に関しては、窓口支払いがない方がとても助かります。
- 子どもの医療費助成制度について、3カ月後に戻ってくることは、ありがたいのですが、病院の会計の時に、750円のみを支払すむと、家計が助かります。
- 子どもの医療費助成制度で市町村によって年齢や金額が違うのを岩手県で統一してほしい。
- 医療費助成制度について、現在未就学児までは窓口負担なしの制度になり、大変助かっています。ぜひ、小、中学生も750円以上の医療費の一時負担を無くす形に制度を改革していただきたいと強く思っております。宜しくお願い致します。

② ひとり親世帯の経済的な支援に関する課題

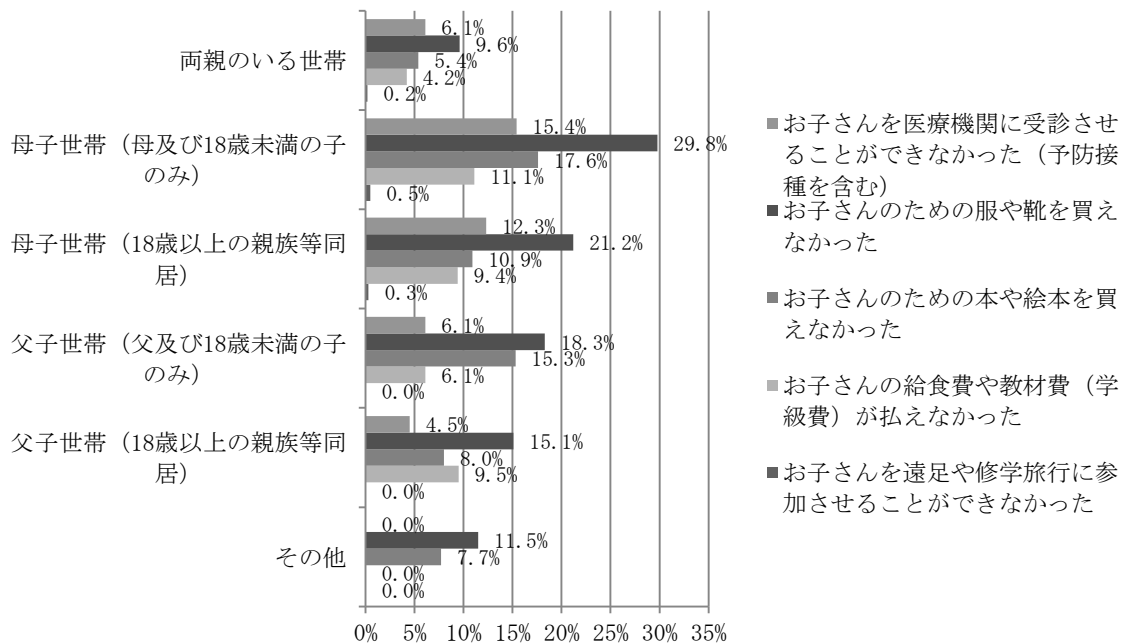
- 母子世帯及び父子世帯の保護者は、両親のいる世帯に比べ、経済的な理由により電気・ガス・水道などが止められた、生活費を金融機関などから借金したなど、生活への影響が大きい経験をした割合が高い。

【保護者回答】あなたの世帯では、おおむね1年の間に、経済的な理由（お金が足りなくて）で、次のような経験をしたことがありますか。（複数回答から抜粋）



- 母子世帯の保護者は、両親のいる世帯及び父子世帯に比べ、経済的な理由により子どもの服や靴を買えなかったなど、子どもに直接影響が及ぶ経験をした割合が高い。（再掲）

【保護者回答】あなたの世帯では、おおむね1年の間に、経済的な理由（お金が足りなくて）で、次のような経験をしたことがありますか。（複数回答から抜粋）



- ・ 小学5年生では、経済的な理由による影響が、世帯全体の生活に現れた場合に比べ、子どもに直接現れた場合に、子どもの幸福感との関連がより大きいことが窺える。(再掲)

【保護者回答】あなたの世帯では、おおむね1年の間に、経済的な理由（お金が足りなくて）で、次のような経験をしたことがありますか。(複数回答、小学5年生・中央値の1/2未満)

【保護者回答】あなたの世帯では、おおむね1年の間に、経済的な理由（お金が足りなくて）で、次のような経験をしたことがありますか。(複数回答、小学5年生・中央値の1/2未満)

(世帯全体の生活に現れた場合)

(子どもに直接現れた場合)

	問4 あなたは、自分は幸せだと思いますか。(1つに○)		
	とても幸せだと思う (A)	あまり幸せだと思わない、幸せだと思わない (B)	(A)と(B)の割合の乖離 (B-A)
1 電気・ガス・水道などが止められた	24 4.2%	2 2.6%	▲ 1.6
2 医療機関を受診することができなかった(予防接種を含む)	67 11.8%	12 15.6%	3.8
3 生活費を金融機関などから借金をした	70 12.3%	13 16.9%	4.6
4 最低限の食事を食うことができなかった	10 1.8%	5 6.5%	4.7
5 クレジットカードの利用が停止になった	24 4.2%	8 10.4%	6.2
6 国民健康保険料や国民年金の支払いが滞った	100 17.6%	15 19.5%	1.9
7 税金の支払いが滞った	103 18.1%	15 19.5%	1.4
8 電話(固定・携帯)などの通信料の支払いが滞った	68 12.0%	15 19.5%	7.5
9 家賃や住宅ローンの支払いが滞った	42 7.4%	10 13.0%	5.6
10 新しい衣服や靴を買うことができなかった	147 25.8%	21 27.3%	1.5
11 冠婚葬祭のつきあいを控えた	52 9.1%	7 9.1%	0.0
12 理髪店や美容院に行くことができなかった	136 23.9%	20 26.0%	2.1
13 敷金・保証金等を用意できないので、住み替え・転居を断念した	35 6.2%	5 6.5%	0.3
14 趣味やレジャーの出費を減らした	252 44.3%	37 48.1%	3.8
15 どれにもあてはまらない	198 34.8%	23 29.9%	▲ 4.9
16 無回答	17 3.0%	1 1.3%	▲ 1.7

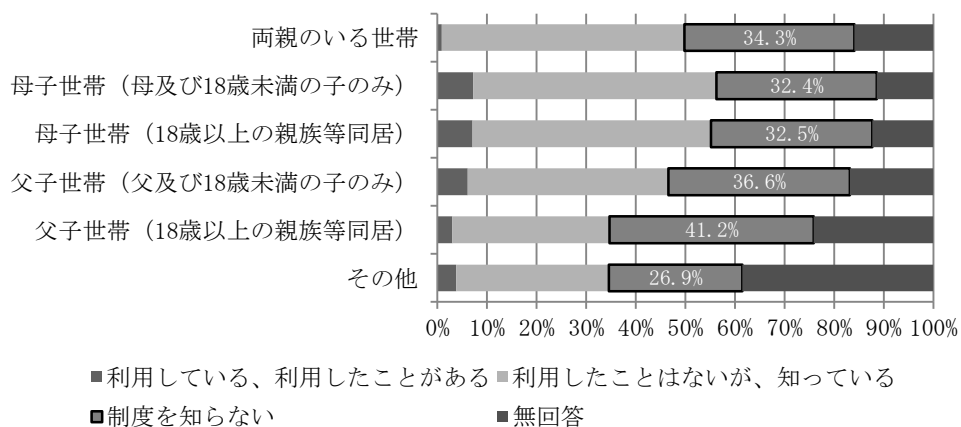
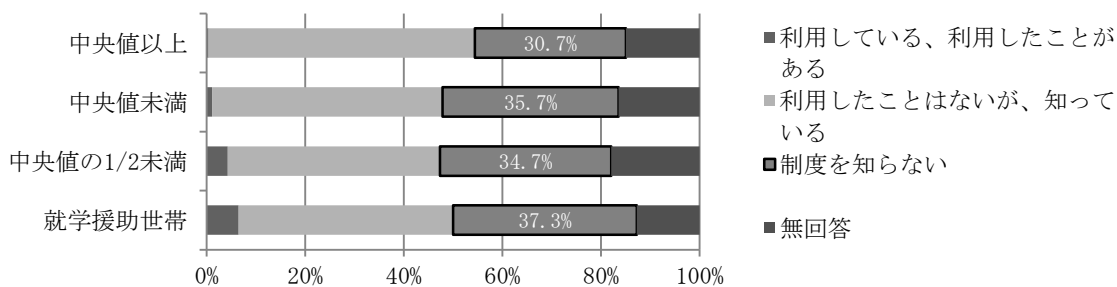
	問4 あなたは、自分は幸せだと思いますか。(1つに○)		
	とても幸せだと思う (A)	あまり幸せだと思わない、幸せだと思わない (B)	(A)と(B)の割合の乖離 (B-A)
1 お子さんを医療機関を受診させることができなかった(予防接種を含む)	72 12.7%	13 16.9%	4.2
2 お子さんのための服や靴を買えなかった	116 20.4%	19 24.7%	4.3
3 お子さんのための本や絵本を買えなかった	73 12.8%	10 13.0%	0.2
4 お子さんの給食費や教材費(学級費)が払えなかった	53 9.3%	19 24.7%	15.4
5 お子さんを遠足や修学旅行に参加させることができなかった	1 0.2%	1 1.3%	1.1
6 お子さんを習い事に通わせることができなかった(通信教育を含む)	89 15.6%	19 24.7%	9.1
7 お子さんに誕生日プレゼントやお年玉をあげることができなかった	92 16.2%	23 29.9%	13.7
8 家族旅行(日帰りを含む)ができなかった	179 31.5%	34 44.2%	12.7
9 どれにもあてはまらない	294 51.7%	33 42.9%	▲ 8.8
10 無回答	31 5.4%	2 2.6%	▲ 2.8

- ・ 世帯類型に関わらず、子どもの教育のための経済的支援に対する保護者のニーズが高いほか、親と18歳未満の子のみの母子世帯及び父子世帯の保護者では、日頃の生活のための経済的支援のニーズが高い。

【保護者回答】あなたは、子育てをしていくうえで、どのような支援が充実すると良いと思いますか。(複数回答)

	両親のいる世帯	母子世帯(母及び18歳未満の子のみ)	母子世帯(18歳以上の親族等同居)	父子世帯(父及び18歳未満の子のみ)	父子世帯(18歳以上の親族等同居)	その他
1 保育所等の施設の充実	2,553 20.1%	249 10.8%	150 12.8%	12 9.2%	37 18.6%	6 23.1%
2 放課後児童クラブ(学童保育)や病児保育の充実	3,254 25.6%	515 22.4%	214 18.3%	13 9.9%	31 15.6%	7 26.9%
3 子どもを気軽に(一時的に)預かってくれる場所やサービス	2,733 21.5%	433 18.8%	202 17.3%	18 13.7%	24 12.1%	2 7.7%
4 低い家賃で住める場所(公営住宅など)	1,540 12.1%	912 39.7%	371 31.7%	30 22.9%	26 13.1%	7 26.9%
5 子どもの教育のための経済的支援	6,071 47.7%	1,152 50.1%	569 48.7%	64 48.9%	90 45.2%	13 50.0%
6 日頃の生活のための経済的支援(子育ての手当や公的助成)	3,853 30.3%	912 39.7%	409 35.0%	56 42.7%	68 34.2%	8 30.8%
7 子どもの医療制度の充実	6,876 54.1%	753 32.8%	448 38.3%	48 36.6%	92 46.2%	4 15.4%
8 子どもの進路や就労について相談できる場所	1,413 11.1%	269 11.7%	171 14.6%	16 12.2%	27 13.6%	2 7.7%
9 保護者の就労について相談できる場所	407 3.2%	101 4.4%	60 5.1%	5 3.8%	8 4.0%	1 3.8%
10 生活向上のための保護者の資格取得、教育の機会	962 7.6%	245 10.7%	137 11.7%	10 7.6%	13 6.5%	1 3.8%
11 子どもの将来のために職場体験等ができる場所	2,684 21.1%	285 12.4%	179 15.3%	23 17.6%	37 18.6%	6 23.1%
12 子どもが安心して遊べる場所(子どもの遊び場や施設)	4,284 33.7%	426 18.5%	268 22.9%	29 22.1%	36 18.1%	7 26.9%
13 子どもにとって自然体験や集団遊びなどの機会(子どもが参加できるイベント)	1,609 12.7%	147 6.4%	107 9.2%	10 7.6%	17 8.5%	2 7.7%
14 地域における子どもの居場所	1,313 10.3%	144 6.3%	93 8.0%	17 13.0%	21 10.6%	2 7.7%
15 子育て中の親同士が交流できる場所	325 2.6%	25 1.1%	22 1.9%	0 0.0%	6 3.0%	0 0.0%
16 子どもが無料もしくは安価で食事ができる場所	1,015 8.0%	285 12.4%	116 9.9%	23 17.6%	26 13.1%	1 3.8%
17 移送サービス	829 6.5%	147 6.4%	100 8.6%	11 8.4%	20 10.1%	3 11.5%
18 無償もしくは低料金の学習支援	4,476 35.2%	828 36.0%	415 35.5%	38 29.0%	65 32.7%	10 38.5%
19 家族以外の世代の異なる人との交流の機会	642 5.0%	52 2.3%	32 2.7%	4 3.1%	12 6.0%	1 3.8%
20 その他	332 2.6%	36 1.6%	28 2.4%	3 2.3%	3 1.5%	0 0.0%
21 特になし	298 2.3%	36 1.6%	19 1.6%	8 6.1%	11 5.5%	2 7.7%
22 無回答	1,697 13.3%	474 20.6%	221 18.9%	23 17.6%	29 14.6%	1 3.8%

- 就学援助世帯や、母子世帯、父子世帯の保護者に、経済的な支援制度の周知が行き届いていない。
【保護者回答】次の公的制度を利用した（または支援を受けた）ことがありますか。「母子父子寡婦福祉資金貸付金、生活福祉資金貸付金」



4 今後の取組の方向性

(1) 教育の支援
① 子どもの授業の理解度に関する課題への対応
<ul style="list-style-type: none">・ 家で落ち着いて学習することが難しい環境にいる子どもたちのために、市町村や民間と連携し、学習を支援する場を充実する必要がある。・ 学校においては、子どもが家庭環境に左右されることなく学力を身につけることができるよう、確かな学力を育成するためのきめ細かな指導を推進する必要がある。
② 子どもの就学に関する課題への対応
<ul style="list-style-type: none">・ 教育に関する経済的な支援制度が必要な世帯に漏れなく活用されるよう、保護者に対し、制度の周知を図るとともに、その活用を促進する必要がある。
③ 子どもの学校生活等に関する課題への対応
<ul style="list-style-type: none">・ スクールカウンセラーの配置など、子どもが悩みを相談できる体制の充実を図る必要がある。・ 学校と、家庭、地域及び関係機関が連携し、苦しい状況にある子どもたちを早期に把握し、適切な支援につなげる体制の強化を図る必要がある。
(2) 生活の安定に資するための支援
① 子どもの家庭環境に関する課題への対応
<ul style="list-style-type: none">・ 家で落ち着いて学習することが難しい環境にいる子どもたちのために、市町村や民間と連携し、学習を支援する場を充実する必要がある。(再掲)・ 保護者が子どもとの団らんや会話のための時間を持てるよう、民間企業等による仕事と子育ての両立を支援する取組を促進する必要がある。
② 子どもの居場所に関する課題への対応
<ul style="list-style-type: none">・ 子ども食堂など、民間団体等による子どもの居場所づくりの取組を支援し、全市町村への取組の拡大を図る必要がある。
③ 子どもの朝食の摂取に関する課題への対応
<ul style="list-style-type: none">・ 保護者が子どもと一緒に朝食を食べる時間を持てるよう、民間企業等による仕事と子育ての両立を支援する取組を促進する必要がある。(再掲)・ 朝食の摂取を含めた、子どもの望ましい食習慣や生活習慣の形成を図るため、学校や地域と連携し、子どもと保護者に対する食育を推進する必要がある。
④ 世帯の住居に関する課題への対応
<ul style="list-style-type: none">・ 母子世帯等に対し、公営住宅における優先入居枠の設定や、民間賃貸住宅のセーフティネット住宅への登録促進などにより、家賃負担の少ない住居の確保を支援する必要がある。
⑤ 保護者への相談支援に関する課題への対応
<ul style="list-style-type: none">・ ひとり親世帯の保護者の多様な相談支援ニーズに対応するため、民間を含めた関係機関等のネットワーク化を図るとともに、包括的な相談支援体制を構築する必要がある。・ ひとり親世帯の保護者のお金や家計管理に関する相談に対応するため、ファイナンシャルプランナー等による講習会や個別相談の取組を推進する必要がある。・ ひとり親世帯への相談支援を行う支援者のスキルアップを図るため、支援者に対する研修等を充実する必要がある。

(3) 保護者に対する職業生活の安定と向上に資するための就労の支援
① 母子世帯の保護者の就労に関する課題への対応
<ul style="list-style-type: none"> ・ ひとり親支援に関わる民間を含めた関係機関等のネットワーク化を図り、母子世帯の保護者のスキルアップや就労を包括的に支援する必要がある。 ・ 母子世帯の保護者に対し、教育訓練や資格取得を支援する給付金等の支援制度の周知を図るとともに、その活用を促進する必要がある。 ・ 母子世帯の保護者のフルタイムの就労を支援するため、保育所整備を計画的に進めるとともに、放課後児童クラブをはじめとする地域の実情に応じた多様なサービスの充実を図る必要がある。
② 子どもの放課後の過ごし方に関する課題への対応
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者が就労により放課後に家にいない子どもの居場所を確保するため、放課後児童クラブをはじめとする地域の実情に応じた多様なサービスの充実を図る必要がある。(再掲)
③ 保護者の仕事と子育ての両立に関する課題への対応
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者が、子どもを医療機関に連れて行く時間を確保しやすくするため、民間企業等による仕事と子育ての両立を支援する取組を促進する必要がある。(再掲)
(4) 経済的支援
① 子どもの医療機関の受診に関する課題への対応
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが適切な医療を受ける機会を確保するため、子どもの医療費助成の現物給付を中学生まで拡大する必要がある。
② ひとり親世帯の経済的な支援に関する課題への対応
<ul style="list-style-type: none"> ・ ひとり親世帯の保護者の多様な相談支援ニーズに対応するため、民間を含めた関係機関等のネットワーク化を図るとともに、包括的な相談支援体制を構築する必要がある。(再掲) ・ 生活や教育に関する経済的な支援制度が必要な世帯に漏れなく活用されるよう、保護者に対し、制度の周知を図るとともに、その活用を促進する必要がある。 ・ ひとり親世帯の保護者のお金や家計管理に関する相談に対応するため、ファイナンシャルプランナー等による講習会や個別相談の取組を推進する必要がある。(再掲)